

胆振東部地震への対応について

9月6日未明に北海道胆振地方中東部を震源として発生した「北海道胆振東部地震」(マグニチュード6.7、震度7)は、死者41人、負傷者749人、住家の全壊は415棟、半壊1,346棟、一部損壊8,607棟という甚大な被害を発生させました。さらに苫東厚真火力発電所が破損し緊急停止したことから道内全域停電(ブラックアウト)が発生し、交通・通信・病院などの公共インフラのまひと酪農など産業にも被害が生じました。

連合北海道は地震発生直後に、構成産別と地協を通じた組合員の被災・被害状況の調査とともに、①支援カンパの実施 ②災害ボランティア派遣の検討 ③震災から生じる労働相談窓口の開設 の取り組みを決定しました。



直ちに取組んだ①「支援カンパの実施」と③「労働相談窓口の開設」に対し、②「災害ボランティア派遣」については、9月14日の出村会長をトップとした被災地調査をはじめ、数度の再調査の結果、「ボランティアは充足。ニーズ減少。3町は『受け入れ縮小』方針」から、組織的な対応が可能な「連合北海道ボランティア団」は派遣せずとしました。

一方、今後の被災地の復興支援に向け、現地の胆振地協が取り組む「購入運動」について協力すること。さらに、長期化する避難生活に疲弊する町民、日々の生活の中においても不安を感じている子ども達等の情報を得て「精神的な支援」について取り組むこととしました。

胆振地協が取り組んだ地域産品購入による復興応援と物販カンパには、道労福協や全国からの購入応援も有り、「ししゃも」は735箱、「成吉思汗」は1,523箱を販売し、購入総額は7,493,100円、一箱あたり200円のカンパ金は451,600円となり、全額を「支援カンパ」に集約しました。





「精神的な支援」には、これまでの被災地で、被災者を応援する芸能ボランティアが開催したコンサートや「お笑い」が貢献したことから、11月18日に厚真町・むかわ町で「れんごう寄席」を開催しました。

札幌を中心に活躍するプロのマジシャン、落語家・腹話術師がボランティアで芸を披露。

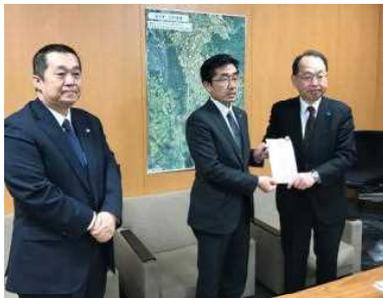
連合本部からは逢見会長代行が駆けつけ、大学落研で鍛えた玄人はだしの落語を披露し、多くの町民に「笑い」を通じて「連帯」を提供することが出来ました。

産別・地協・地区連合で取り組んだ救援カンパは、連合本部からの「愛のカンパ」と全国の地方連合からもカンパ金が寄せられ、物販カンパと合わせて、15,125,173円を集約することが出来ました。

配分先は第3回連合北海道執行委員会で局地激甚災害指定のあった「厚真町」「安平町」「むかわ町」の3町に決定し、1月29日、出村会長、日西連合胆振会長が安平・厚真・むかわ町を訪問し、500万円/町をそれぞれ、町長に手渡しました。(残金は全額、連合本部の「愛のカンパ」に入金します)

連合北海道構成産別・地協・地区連合の積極的な取り組みに感謝し、さらに物販、カンパに支援を寄せていただいた全国の連合の仲間に感謝申し上げます。

連合北海道は、今後も引き続き、今回の震災を風化させず、被災地に寄り添う取り組みを継続していきます。



【安平町】



【厚真町】



【むかわ町】